

2025 年度 事業計画書

学校法人 白梅学園

目 次

[Ⅰ]2025 年度理事長方針.....	1
学校法人白梅学園役員一覧（2025 年 4 月）	2
設置学校の概要	3
学園組織図（2025 年 4 月）	5
[Ⅱ]2025 年度各部門の事業計画.....	6
1. 学園・法人事務局	7
2. 白梅学園大学／大学院／短期大学	13
3. 白梅学園高等学校	20
4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部	22
5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園	25
[Ⅲ]2025 年度予算.....	31
1. 予算編成方針	31
2. 2025 年度予算の概要.....	31
3. 事業活動収支予算書における収支見通し	33
4. 資金収支予算の概要	34
5. 事業活動収支計算書	35
6. 学生生徒園児数／本務教員数	37

[I]2025 年度理事長方針

2025 年度は、「超少子化」による学生数・園児数の減少を踏まえ、定員の確保と支出の見直しを中心とした財政の再建を喫緊の課題として取り組む。そのうえで、教育水準の維持・発展をするため、以下に述べる重要施策を進める。

1. 白梅学園の「持続的存続・発展」に向けた取組み

(1) 中長期を見通した学園運営の推進（白梅学園グランドデザインの策定）

中長期を見通した学園全体の将来像をまとめ、ビジョンを持った学園運営を行うため、2026 年度からの概ね 10 年程度を対象期間とする教学面、経営面の双方を含めた「白梅学園グランドデザイン」を策定する。

(2) 学園財政構造の見直し

2024～2025 年度にかけて入学・入園者数が大幅に減少したことを受け、短期的には支出の抑制による収支バランスの改善を図る。中長期的には白梅学園の「持続的存続・発展」のために、財政基盤の確立・安定を実現する財政構造の見直しを図る。

(3) 学園のより円滑な運営の推進

私立学校を取り巻く現下の厳しい状況にあって、本学園がより円滑に運営できるよう、教学と経営の一体的運営によって課題解決に取り組めるような体制づくりに努める。また 2025 年 4 月から施行される改正私学法に基づいた新体制を整え、よりガバナンスを強化した学園運営を行う。

2. 学園創立 80 周年記念事業の推進

(1) 教育・研究環境の整備

大学・短期大学新棟については、2024 年 2 月の理事会における方針変更を基に建設計画全体を再検討し、現在の財政状況及び今後の財政見通しを踏まえ、総額予算の範囲内でより高い効果を得るため、当面は既存棟の改修を優先して検討・実施する。

また、設置を検討している大学新学科の構想を踏まえて、関連した校舎の改修について検討を行う。

(2) 建学の精神の高揚

白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「ヒューマニズムの涵養」に資する講演会を実施する。

（理事長 井原 徹）

学校法人白梅学園役員一覧（2025 年 4 月）

理 事 長	井原 徹
-------	------

理 事	小玉 重夫
-----	-------

理 事	倉澤 壽之
-----	-------

理 事	武内 彰
-----	------

理 事	南 和男
-----	------

理 事	本山 方子
-----	-------

理 事	兼清 信生
-----	-------

理 事	樋口 秋夫
-----	-------

理 事	増田 昭一
-----	-------

理 事	長倉 澄
-----	------

理 事	昼間 守仁
-----	-------

理 事	西井 泰彦
-----	-------

理 事	細江 卓朗
-----	-------

理 事	牧野 光昭
-----	-------

監 事	池田 勝
-----	------

監 事	金子 武弘
-----	-------

設置学校の概要

白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名		入学定員	収容定員
子ども学研究科 子ども学専攻	修士課程	5	10
	博士課程	2	6
合 計		7	16

白梅学園大学

子ども学部	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
	子ども学科	120	6	492
	発達臨床学科(※1)	—	—	—
	家族・地域支援学科	20	2	84
	子ども心理学科(※2)	40	2	164
	教育学科(※2)	50	2	204
合 計		230	12	944

※1：2024 年 4 月募集停止 ※2：2024 年 4 月新設

白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	収容定員
保育科	80	160
合 計	80	160

白梅学園高等学校

		入学定員	収容定員
全日制課程普通科	高等部	280	840
	清修中高一貫部	60	180
合 計		340	1,020

白梅学園清修中学校

	入学定員	収容定員
白梅学園清修中学校	60	180
合 計	60	180

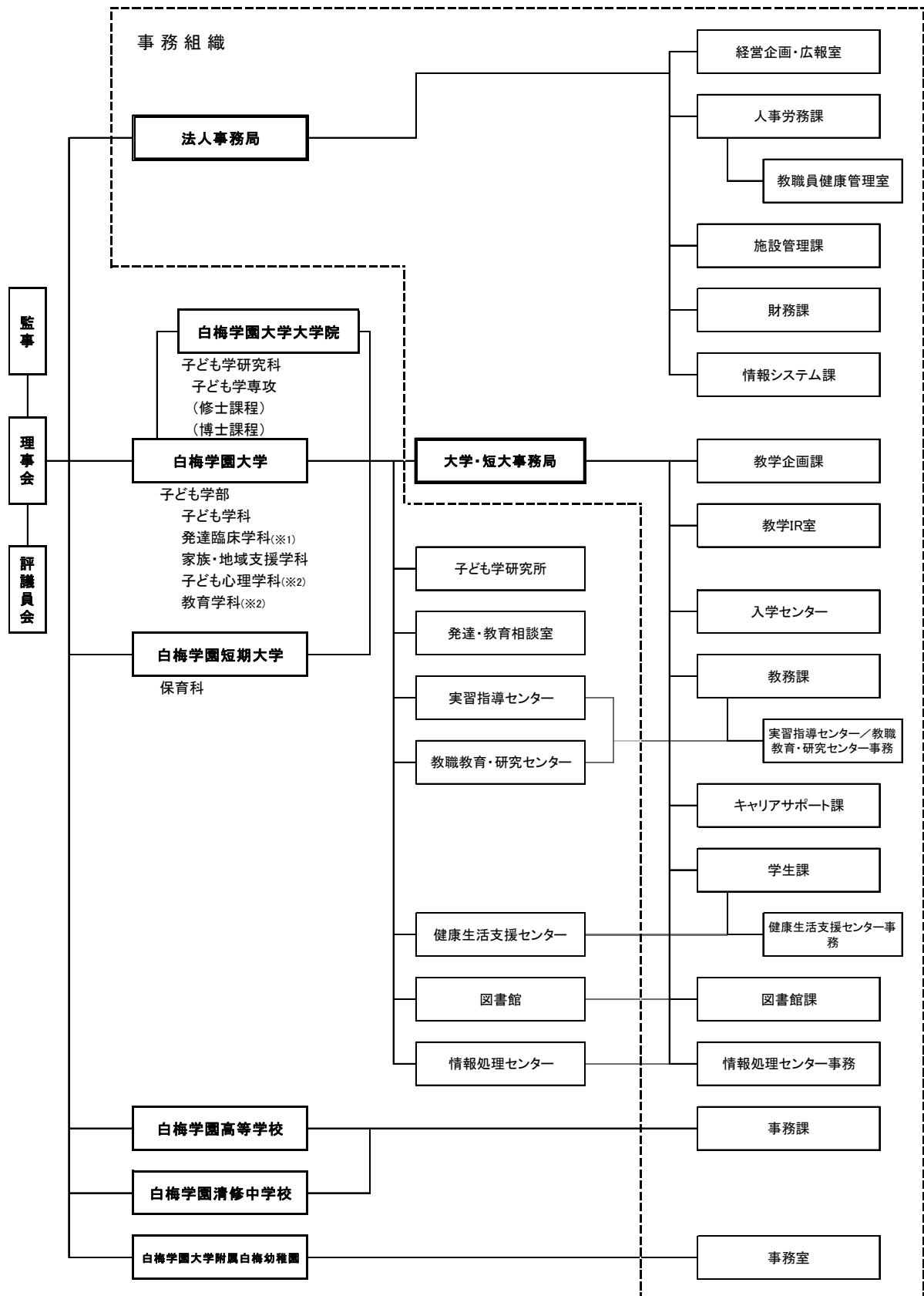
白梅学園大学附属白梅幼稚園

	入学定員	収容定員
白梅学園大学附属白梅幼稚園	70	210
合 計	70	210

白梅学園合計

学科名等	入学定員	編入学定員	収容定員
白梅学園大学大学院	7	－	16
白梅学園大学	230	12	944
白梅学園短期大学	80	－	160
白梅学園高等学校	340	－	1,020
白梅学園清修中学校	60	－	180
白梅学園大学附属白梅幼稚園	70	－	210
合 計	787	12	2,530

学園組織図 (2025 年 4 月)



※1:2024年4月に募集停止
※2:2024年4月に新設

[Ⅱ]2025 年度各部門の事業計画

2025 年度各部門の事業計画は下記の 17 項目で策定した。この項目に基づき、部門別に
関連する項目の主要事業について報告する。

【2025 年度事業計画 策定項目】

- [1]教育活動の推進
- [2]研究活動の推進
- [3]学生・生徒・園児支援の推進
- [4]学生・生徒・園児の確保
- [5]学園広報の推進
- [6]国際交流の推進
- [7]生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進
- [8]卒業生との連携等の推進
- [9]働き方・仕事の仕方の見直し
- [10]建学の精神の高揚
- [11]令和充実 5 ヶ年計画・80 周年記念事業
- [12]大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画
- [13]財政再建計画
- [14]ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底
- [15]管理運営（施設改修・更新・労務他）
- [16]情報化教育/ICT
- [17]その他

1. 学園・法人事務局

【部門長方針及び重点取組】

少子化が予測よりも早く進む中で、法人の経営については厳しさが増している。そのような状況にあっても、本学園が教育・研究・社会貢献を継続的に実施できるよう、対策を検討し、実施することが必要となる。中長期を見通した、本学園の将来像である「白梅学園グランドデザイン」を教学・経営の両面にまたがって策定し、必要な取組みに着手する。

2025 年度の重点取組は、以下の 5 点である。

(1) 白梅学園グランドデザインのとりまとめ

各学校の「教学グランドデザイン」及び「経営グランドデザイン（財政計画、キャンパス計画等）」を統合し、学園としての将来計画である「白梅学園グランドデザイン」を 2025 年 10 月に策定する。

(2) 学園の財政改善策の検討・実施

2025 年度以降の財政についていくつかの条件で試算したシミュレーションを基に、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な対応について引き続き検討し、入学者数の減少に応じて、恒常的な収支バランス確保に必要な財政改善策を実施する。

(3) 白梅学園創立 80 周年記念事業（既存棟改修、募金活動等の推進）

教育・研究環境の整備については、現下の学園の財政状況を踏まえて 2024 年 2 月の理事会で承認された方針に基づき、在学生の学習環境の改善とともに、学生募集への影響も考慮して、既存棟の改修を優先して実施する。

教育・研究環境の整備に関する方針変更に伴い、あらためて卒業生や教職員 OG・OB、企業、地域の方々等に対して、丁寧な説明を心掛けながら募金活動を継続する。創立 80 周年記念事業の進捗について、寄付者等に対して中間報告を行う。

(4) 私学法改正対応

2025 年 4 月の改正私学法の施行に基づき、役員・評議員の改選を行う。内部統制システムの基本方針に則り、適切な業務の運営を行う。2022 年に制定した「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」について、改正私学法の内容も踏まえて見直しを行う。

(5) 事務体制・機能の見直し

厳しい財政・人員状況にあって、より効率的な業務実施が図られるよう、事務体制・機能の見直しを進める。

（事務局長 舟橋 徹）

【主要な事業計画】

(学園・法人事務局)

5. 学園広報の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 情報の積極的な発信	・ 広報媒体の有効活用と機能の充実のため、ホームページを充実させ機能強化を図る。新しい広報媒体（SNS 等）を積極的に活用する。	(1) ホームページのリニューアルを完了する。 (2) 大学・短大ホームページ改修プロジェクトにて、WEB 閲覧状況の分析・検証に基づき、ホームページの改修を完了する。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 事務体制・機能の強化	①1 期に取り組んだ組織の見直しを継続し、誰もが活躍できる体制を構築する。特に業務に優先順位をつけて整理することによって時間を創出し、横断的に業務を行う余力のある組織を目指す。 ②事務職員のさらなる質的向上を目指し、評価と改善の見える化を行い、情報収集、発信・提案ができる職員の育成を図る。 ③職員のモチベーションを向上させてより良い業務を行うために、働きやすい職場を目指し、労務課題を整理する。	(1) 「仕事評価」を試行し、事務職員の質の向上を図る。
10. 建学の精神の高揚		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 記念講演の実施	(該当なし)	(1) 建学の精神涵養のため、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「杉原千畝の（と）ヒューマニズム（仮）」講演会を実施する。

11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 白梅学園創立 80 周年記念事業	①白梅学園創立 80 周年記念事業について、記念誌（学園史（補遺版））の編纂、寄付金（目標金額 2 億円）の募集、その他事業を学園全体で進める。新棟関連工事が完了後、記念式典を実施する。 ②建学の精神について、学園史編纂の中で改めて見つめなおし、全教職員で深め実践できる方法を模索する。新入職者への建学の精神の伝承等についても取り組む。	(1) 白梅学園創立 80 周年記念事業募金を継続実施する。 ①新棟建設に関する方針変更に伴い、あらためて卒業生や教職員 OG・OB、企業、地域の方々等に対して、丁寧な説明を心掛けながら募金活動を行う。 ②実施事業の見直しに伴い、募金 HP、募金パンフレットを修正する。 ③募金期間の中間にあたるため、寄付者等に対して、中間報告を行う (2) 建学の精神涵養のため、白梅学園創立 80 周年記念事業の一環として、「杉原千畝の（と）ヒューマニズム（仮）」講演会を実施する。
(2) 白梅学園グランドデザインの策定	①経営及び教学の各グランドデザイン策定分科会にて検討した教学・経営グランドデザインの統合・調整を図り、白梅学園グランドデザインを策定する。策定後は、ホームページ等にて学内のみならず広く公表する。 ②長期にわたって信頼を得られるとともに、学園全体で一体感を感じられる学園ブランドイメージを育て、その浸透を図る。継続的な発信の仕組みを作るとともに、定着を図る。	(1) 各分科会からの最終報告に基づき、策定会議にて財政の見通しも踏まえつつ、教学グランドデザイン、経営グランドデザインの統合・調整を図る。白梅学園グランドデザイン策定後、ホームページ等にて公表する。
12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 大学・短期大学新棟の建築（2024 年度工事着工、2026 年度供用開始予定）	①大学・短期大学新棟については、学園の財政状況を踏まえつつ、施設のあり方について検討を重ね、2026 年度の供用開始に向けて着実に設計・工事を推進する。 ②既存棟の部分修繕、A・B 棟の解体、中庭の再整備を 2027 年度中に完了し、学生・生徒・園児にとって居心地の良い場所を確保する。合わせて高校・中学・幼稚園の教育環境整備も実施する。	現下の学園の財政状況を踏まえ、2024 年 2 月の理事会で承認された方針に基づき、既存棟の改修を優先して実施する。その際、在学生の学習環境の改善とともに、学生募集への影響も考慮し、以下の項目を実施・検討する。 (1) A 棟をより長く安全に利用するため老朽化の進行を防ぐとともに、美観を保つ目的から、外壁塗装や屋上防水、玄関の整備を行う。 (2) I 棟 3F 食堂を学生の居場所として利用できるようにラーニングコモンズ化を検討し、必要に応じて家具の入れ替えや改修を実施する。 (3) 大学新学科設置に関する補助金に採択されたことを受け、新学科の構想を踏まえて、関連した校舎の改修について検討を行う。

13. 財政再建計画		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。	・教育活動資金収支差額の安定確保（収支差額比率 10% 超）、および基本金組入前当年度収支差額の黒字基調維持により、安定的な財政基盤が確立する。 ・大短新棟建築以降においても、将来に向けた着実な施設設備積立が実現する。 ・恒常的な経費削減策を実施するとともに、効率的・有効的な経費配分を行い、収支バランスを確保する。	(1) 2025 年度以降の財政についていくつかの条件で試算したシミュレーションを基に、白梅学園が持続的に存続・発展するために必要な対応について引き続き検討する。 (2) 入学者数の減少に応じて、恒常的な収支バランスが確保できるように、2025 年度の予算策定時に講じた対策に加え、さらに必要な財政改善策を作成する。 (3) 白梅学園ランドデザイン策定にあたり、財務面からの制約や施策についてとりまとめる。
(2) 学生納付金等収入の確保に向け、教学と連携して学生数等の増加策を検討する。	・学生納付金等収入の安定確保に向け、教学と連携した学生数等の増加策を実施し、収容定員充足を維持する。	
(3) 収入の多元化を図り、資産運用とともに、補助金、寄付金等獲得の取組を強化する。	・補助金について、可能性のある経常的な補助金の安定的な確保に加え、特別補助、加算額等を確実に獲得する。 ・寄付金などの外部資金について、多様な収入源を確保するための方策を実施する。 ・資産運用について、学園の資金を安全かつ有利に運用し、その差益により教育研究の発展に資する。	(1) 80 周年記念事業募金を継続的に実施する（募金室と連携）。 (2) 第一大体育館へのエアコン設置にあたり、補助金を活用する（施設管理課と連携）。 (3) ICT 整備については東京都の補助金を活用する（情報システム課と連携）。 (4) 積立金や引当資産について整理し、目標金額を定めた運用について検討・実施する。
(4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。	・各部門ごとの自立的運営について、財政面におけるガイドラインや各種基準をまとめる。 ・基準に満たない場合において、必要な対策を検討し、実施する。	(1) 緩やかな部門別収支均衡に向けて、各部門にて達成すべき入学者数と支出削減について検討する。 (2) 検討結果に基づき、各部門と協議する。
(5) 財政状況の推移に応じて、部門、組織の見直しを行う基準等を検討する。	・各部門の財政状況の推移に応じ、部門・組織の見直しを行うための各種基準をまとめる。 ・収容定員未充足にともなう学園財政への影響に応じて、各部門や組織のあり方等について検討を行い、必要な対策を実施する。	

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 私立学校法改正も踏まえたガバナンス改善・強化	①2025 年度施行予定の改正私学法の趣旨である「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」「建設的な協働と相互けん制」への対応として寄附行為を改定し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理する。 ②改正私学法、及び関連の法令に基づき内部統制システムを整備する。 ③「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」については、毎年度順守状況を公開するとともに、改正私学法の内容も踏まえて、3 か年ごとに内容を見直す。	(1) 改正私学法に基づき、役員・評議員の改選を行う。 (2) 2024 年度に理事会の承認を得た内部統制システムの基本方針に則り、適切な業務の運営を行う。基本方針と業務運営に齟齬がないように改善する。 (3) 2022 年に制定した「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」について、改正私学法の内容も踏まえて見直しを行う。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 既存校舎の長寿命化のための維持管理及び建て替え計画	①既存建物の長寿命化のため、修繕計画を見直す。 ②建て替え時期の見直しやコンパクト化など、既存建物の建て替え計画の見直しを行う。 ③インフラ設備の更新計画を立案する。 ④上記計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。	(1) A 棟をより長く安全に利用するため老朽化の進行を防ぐ観点及び見栄えを改善する目的から、外壁塗装や屋上防水、玄関の整備を行う。 (2) 大短の第一大体育館に、エアコンを設置する。 (3) 高中幼のトイレの改修を実施する。
16. 情報化教育/ICT		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 既存ネットワークインフラ／サーバリプレイス	・学園ネットワークインフラ高速化整備：学外接続回線及び棟間接続回線の通信速度 10G 実現、末端端末レベルでのギガビット通信実現を目指す。	(2025 年度該当なし)
(2) 統合認証システム整備 グループウェア・ワークフロー等整備	・学園全体の DX 化を段階的に進め、教職員の利便性向上と円滑な学園業務の遂行・情報共有を目的にグループウェアとワークフローシステムの整備を進め、教職員の利用用途拡大を図る。合わせて各種サービスのセキュリティ強化を図る。	(1) 統合認証システムに組み入れ可能なサービスが増えた場合、サービス提供ベンダーと設計作業を行い随時利便性向上に努める。 (2) ワークフローにおける申請書種類について、各部門からの要望を反映し電子承認（コラボフロー）によりペーパーレスで申請可能なものを増やす。
(3) 教職員端末リプレイス	・多様化する学園業務に対応するため学園貸与端末のノート型パソコンへのリプレイスを進め、学園内外問わず業務を行うことができるよう整備を進める。	(2025 年度該当なし)

(学園・法人事務局)

(4)新棟・既存棟ラーニング コモンズ他 ICT 環境整備、 大短講義室 AV 環境整備	・大短新棟竣工を踏まえた各種コモンズ等の学生利用スペースの ICT 利用環境整備、ならびに教員の ICT 関連機器の共同利用環境を整備することで、教育研究への活用機材を充実させかつ合理化コスト削減を図る。	(1) 白梅高校全教室で老朽化した電子黒板他 ICT 機器再整備、授業環境 ICT 整備を年度内に実施する。
---	--	--

2. 白梅学園大学／大学院／短期大学

【部門長方針及び重点取組】

本学を取り巻く学生募集環境は18歳人口の減少、児童学、社会福祉、教育学に興味をもつ受験生の減少といった要因で厳しさを増している。いま、本学は培ってきた子ども学をアップデートし、新たなフェーズへと展開していくべき転換期にある。社会に選ばれる大学となるために、研究成果を地域に還元し、教育の質の高さを対外的に示しながら、先行き不透明な社会でも専門的な知識・技術を活用し活躍できる人材を輩出することが必要である。

(1) 教育活動の推進—多面的な学修成果の評価と内部質保証体制の構築

学修者本位の教育を実現するため、共通テキストを活用した初年次教育とともに、学修成果指標（アセスメント・ポリシー）に基づくルーブリック評価を利用した学修成果の可視化と学生へのフィードバックを行い、学生の学習成果の水準等を保証するPDCAを成立させていく。こうした多面的な学修成果の評価と検証を重ねることで教育の内部質保証を担保する。

(2) 研究成果の発信—地域連携と国際交流を介した研究活動の展開

小平市・国立市との各種連携事業の継続、地域課題型プロジェクトとして茅ヶ崎市、明石市との連携協定の推進、大学院主催の「子ども学カフェ」、国際交流の活性化を図るシンポジウムの開催など、知の拠点としての研究の活性化とグローバルなネットワークハブの構築を展開する。また、学会等における研究成果の発信のさらなる活性化を目指し、科研費等の外部資金への申請を支援する。

(3) 学生募集活動の強化—新学科の設置と高大連携の推進、募集ターゲットの拡大

本学が長年培ってきた子ども学のアップデートに向けた新学科構想（仮称：子ども環境学科）を具体化することで多様な価値創造を実現する。また、DGX（デジタル・グリーン・トランスフォーメーション）を加速する地域エコシステムの形成を特色とする新学科を見据え、農業高校や総合高校等と高大連携協定を結び、新たな入学者層の獲得を図り学生募集の安定化に努める。さらに、漸減する18歳人口に代わる募集ターゲットとして、編入学者の獲得を強化し、収容定員充足率の改善へと繋げる。

(4) 教職学協働の推進—学生の大学運営参画とエージェンシーの発揮

子育て広場・小平地域連携・西ネット、白梅防災プロジェクト・フードパントリーといった地域連携活動やキャリア啓発に連動した地域ボランティア、オープンキャンパス、本学の魅力を高める白梅盛り上げ隊！プロジェクト等、学生が主役となる場を大学として提供し、市民性やエージェンシーの発揮を促す。

（白梅学園大学・短期大学 学長 小玉 重夫）

【主要な事業計画】

2-1. 白梅学園大学／大学院

1. 教育活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 新学科体制での目的遂行	・学位プログラムごとに一貫性のある学生指導ができています。 ・高度化専門科目が着実に履修され、学生の学びが深まっている。 ・教職志向者のキャリア教育を適切に行っている。	・カリキュラムにおける高度化専門科目が一部開始され、学生の学びが深まるような支援を行う。
(2) 可視化した学修成果を用いた教育の質向上サイクルの展開	・アンケートを活用した効果測定ができています。 ・学科でまとめたリフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。	・アセスメントポリシーに則した IR データの収集及び分析結果を学科・各部局へフィードバックし、それらの回答をもとに改善方策を検討する。 ・卒論および2年次のルーブリック評価の経年変化を分析するとともに、測定方法についても改善を行う。
2. 研究活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 成果発信の強化・充実	・要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 ・学内刊行物への投稿が活発に行われている。 ・学内助成が積極的に活用されている。	・諸活動におけるホームページ、SNS での発信を継続していく。 ・研究成果の発信を積極的な活用を目指し、投稿要項等の運用を見直す ・研究会等の実施協力
(2) 子ども学アーカイブの構築と大学年史の編纂準備	・大学、短大年史資料の収集、整理、編纂準備が進んでいる。 ・古田家寄贈書、小松隆二氏寄贈書が整理され、公開されている。 ・子ども学アーカイブの構築が進んでいる。	・古田家寄贈書のコレクションの一部公開 ・大学・短期大学の歴史資料の収集、整理を進める。
3. 学生・生徒・園児支援の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 組織的、包括的な学生支援体制の構築	・学生生活支援の更なる充実、総合的な支援の充実を目指す。	・学生課を総合窓口としつつも、専門的な対応機能として（健康、心理、生活）相談窓口が有効的に機能していくように組織的な連携体制を継続する。
(2) 多様な体験活動を通じたキャリア啓発活動の推進	・地域との連携協力を進め公共および企業ボランティアへの参加によって、学生の社会経験力を高めキャリア啓発を推進していく。	・地域活動を中心としつつ、産学連携も含めた学生の社会への参画活動について支援を引き続き行っていく。

4. 学生・生徒・園児の確保		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動	・ 本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。 ・ 学部の収容定員充足に向けては3 年次編入学制度が活用されている。	・ 修学支援新制度の基準である収容定員率 80%以上へと回復させるため、入学定員充足を基本としつつも、学部として最低 233 名の入学者を得る。 ・ 7 月時点のオープンキャンパス累積参加者数の 45%が入学者数に近いものとなっている。7 月までに 520 名程度の参加者（高 3 生）を得る。 ・ オープンキャンパスでは在学学生を前面に出し、本学および保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・ 総合型選抜および学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・ 白短大学編入コースや、編入学指定校制度を活用した募集活動を展開し収容定員を改善する。 ・ 高校、塾・予備校の進路指導担当者との接触をのべ 400 回実施する（短期大学広報と同時）。
(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	・ 高等学校新学習指導要領に対応した入試への移行を円滑に行い、公平性・妥当性を有した選抜を行っている。 ・ アドミッションポリシーを理解した入学志願者を安定的に確保している。	・ アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜を実施し、入学者選抜が妥当性をもって実施されているかについて検証を行う。
(3) 学生募集に寄与する高大連携の推進	・ 農業・総合高校をはじめとする本学志願者の掘り起こしができている。 ・ 出張授業を通じ、本学の教育力と魅力あるカリキュラムが伝わる。 ・ 高等学校における探究活動の支援と地域エコシステムに関する普及ができている。	・ 連携先高校（20 校程度）における出張授業の実施 ・ 連携先高校における新学科の受容性調査依頼と実施
5. 学園広報の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 大学における広報・情報発信業務の確立	・ 大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。	・ 大学・短大ホームページ改修プロジェクトと白梅盛り上げ隊！プロジェクトを通じた本学認知度向上への取り組みを継続する。 ・ 上記プロジェクトを通じた、教職学協働
(2) ターゲットを意識した発信の工夫		

6. 国際交流の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)国際交流活性化の具体的な支援策検討	・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。	・国際関係シンポジウムの計画 ・研究費に関する旅費の取り扱いについて、関係部署との調整
(2)留学生の受け入れについて将来的方針の検討	・18歳人口の減少による入学志願者減少への対策と学生の国際化意識を高める留学生受け入れの両面から検討したうえで、本学としての将来的な方針が決定している。	・留学生の受け入れを積極的に行う他大学の事例を調査する。 ・日本語学校における本学のニーズを調査する。 ・実践女子大学の国際交流推進部との連携活動を通じた情報収集を行う。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続	・特定課題活動が継続して実施されている。 ・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。 ・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。	・子育て広場等学生主導型の地域連携の継続と市民性の涵養
(2)「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見		・小平市、国立市以外の自治体や団体との連携協定の推進 ・活動助成の推進
(3)講座開催による社会貢献		・公開講座、リカレント講座の実施
8. 卒業生との連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)卒業生を対象としたリカレント教育	・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学を目指す。また、リカレント教育（現職者教育）を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。	・公開講座等を通じたリカレント教育の継続 ・大学院での子ども学カフェの継続実施
10. 建学の精神の高揚		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)建学の精神を継承する教職員研修の実施	・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマンイズムの精神の理解を深める。	・年史編纂室の業務の見直しと事業計画を再検討する。 ・ホームページ等でリスト化された資料を紹介し、大学・短期大学の今までの教育研究活動を共有する。
(2)建学の精神の継承	・建学の精神の継承と社会の変化に応じた変革	・新学科構想にける建学の理念、大学の目的の明確化と子ども学のアップデート

11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 中期計画の履行	・大学としての将来構想を策定し、中長期的な教学プランに基づいて大学運営を進める。また、白梅学園創立80周年記念事業の一環である学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。	・4月履行状況調査回答及び、意見対応 ・大学・高専機能強化支援事業による新学科
(2) 大学開学以降の歩みの整理		・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。 ・社会教育協会と連携した資料収集を行う。
12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 基本構想策定と基本計画の答申	・大学短大新棟について、2024年工事開始、2026年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。	・常勤理事会から大学・短大へ検討を依頼された事項について対応する。
(2) 新学科設置に続く、新たなプランの検討	・白梅学園グランドデザイン（SGD）と連動し、2026年度までに新たなプランが具現化されている。	・コンサル（日本開発構想研究所）の支援を受けた、設置準備室による大学・高専機能強化支援事業を活用した改組申請、将来構想の構築
13. 財政再建計画		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組	・外部募集環境を踏まえ、適切な定員管理による収入の安定化に寄与している。	・短期大学の財政状況・募集状況を共有し、適切な定員規模の見直し ・基幹教員制度の活用
(2) 広報戦略の策定効果検証	・費用対効果を検証した予算配分システムが実行されている。	・費用対効果の高い広報活動を展開する。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 第三者評価を通じた、より適切なガバナンス体制の構築	・透明性の高い執行体制が築かれている。	・第三者評価指摘事項の改善
(2) リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備	・危機管理マニュアルが策定されている。	・大学単独で備えるべき危機管理についての対応の検討
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 学生の居心地のよい空間づくりの促進	・現状不足している学生の居場所空間の拡充確保を目指す。	・学生食堂の改修により学生の居場所空間としての提供 ・大短エリアの正面棟であるA棟の外壁修繕をし、外来訪問印象の改善と建物長寿命化 ・体育館の空調設備の導入

2-2. 短期大学

1. 教育活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 新カリキュラムの実装	・入学時からのきめ細かいゼミ指導ができています。	・2024 年度入学生は共通テキストを使用し、1 年前期より「基礎ゼミナール」を受講している。学生の卒業時の学修成果について確認する。
(2) 短期大学独自の学修カルテを用いた学修成果の可視化	・学修成果を可視化し、教育活動の振り返り、改善方策の実施に活かしている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 ・リフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。	・ループリック評価を着実に実行し、評価の分析を行うとともに、測定方法についての検証と改善を実施する。 ・リフレクションシートによる学生の自己評価とフィードバックを行う。
2. 研究活動の推進		
大学と連携して推進する。		
3. 学生・生徒・園児支援の推進		
大学と連携して推進する。		
4. 学生・生徒・園児の確保		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 定員充足率の改善へ向けた募集活動	・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18 歳人口の増減に影響を受けず入学定員 100%以上の入学者数を確保している。	・修学支援新制度の基準である収容定員率 80%以上へと回復させるため、入学定員充足を基本としつつも、最低 50 名の入学者を得る。 ・7 月時点のオープンキャンパス累積参加者数が入学者数に近いものとなっている。7 月までに 70 名程度の参加者（高 3 生）を得る。 ・オープンキャンパスでは在学学生を前面に出し、本学および保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜および学校推薦型選抜の入学志願者で入学定員充足を目指す。 ・大学編入コースを PR し、本学短大への進学メリットを訴求する。 ・高校、塾・予備校の進路指導担当者との接触をのべ 400 回実施する（大学広報と同時）。 ・日本私立短期大学協会（広報委員）の業務を通じて短期大学の魅力を発信する役割を担う。

(2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施	大学と連携して推進する。
(3) 学生募集に寄与する高大連携の推進	大学と連携して推進する。
5. 学園広報の推進	
大学と連携して推進する。	
6. 国際交流の推進	
大学と連携して推進する。	
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進	
大学と連携して推進する。	
8. 卒業生との連携等の推進	
大学と連携して推進する。	
10. 建学の精神の高揚	
大学と連携して推進する。	
11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業	
大学と連携して推進する。	
12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画	
大学と連携して推進する。	
13. 財政再建計画	
大学と連携して推進する。	
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底	
大学と連携して推進する。	
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）	
大学と連携して推進する。	

3. 白梅学園高等学校

【部門長方針及び重点取組】

生徒を中心に据え、教職員・保護者・卒業生・関係諸機関が連携して、生徒の学力と人間力の伸長を成し遂げる。教職員が生徒と向き合い、寄り添いつつ、「教職員の面倒見の良さ」と「生徒の自立」とのバランスを適切にとりながら、卒業時までには自走できる生徒を育成する。

(1) 質の高い授業づくり

「生徒間の対話と表現」のある授業を通して、生徒たちが新たな気づきを得たり、考えを深めたりする体験を積み重ね、その思考力・判断力・表現力を高めていく。

(2) 生徒たちの主体性が発揮される特別活動

体育祭・合唱コンクール・白梅祭の企画立案・実施にあたり、担当教員の適切な指導の下、実行委員会生徒がより主体的に取り組めるように働きかけ、全校生徒の帰属意識を高め、達成感・成就感を得られるようにする。

(3) 生徒の希望進路の実現

すべての生徒の進路希望を実現できるよう、全教職員で指導・支援する。また、特別選抜コースの生徒を対象とした模試分析やそのフィードバックを通して、学習と進路への意識を高めていく。さらに、組織的・系統的な学習指導の確立に向けて教科担当者間の情報交換を行う。

(4) 入学者数の確保

夏季休業日前までの国公立系生徒の出身塾訪問、従来の中学校訪問、体験入学、学校見学会、学校説明会を教職員・生徒とで実施する。また、教職員による個別相談、学校 Web サイト・SNS による頻繁な情報発信により白梅の魅力や強みを伝え、280 人の入学者数を確保する。

(白梅学園高等学校 校長 武内 彰)

【主要な事業計画】

(白梅学園高等学校)

1. 教育活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 質の高い授業づくり	・生徒間の対話と表現のある授業が、日常的に実践されている。 ・生徒による授業評価アンケートにおける設問「授業中に対話的な学びがあるか」において、5段階評価で4.5を達成する。	・日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施する教員の割合を増やしていく。【専任教諭・常勤講師・非常勤講師全体で78%を目指す（前年度達成率74%）】 ・生徒による授業評価アンケートにおいて、質問項目「対話的な学びがあるか」の5段階評価で4.5を目指す（前年度評価4.4）
3. 学生・生徒・園児支援の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動	・生徒たちが体育祭・合唱コンクール・白梅祭を通して達成感・成就感を味わうことができる。 ・各実行委員会生徒の主体性を活かした計画・実施とする。	・体育祭・合唱コンクール・白梅祭において、実行委員会生徒の主体的な取組が前年度以上に発揮されている。 ・学習や部活動とのバランスを図りながら、生徒一人一人が役割を担い、全校行事における達成感・成就感を味わうことができる。
(2) 生徒の希望進路の実現	・現役で国公立15名、早慶上理20名、GMARCH35名の合格者を出す。 ・特別選抜コース会議において模試の分析を行い、教員会又は校内研修等において共有し、教科指導へ反映させる。 ・各教科内で効果的・組織的な特別選抜コースの教科指導を確立させる。	・入学時に国公立系の生徒を10名以上確保する。 ・国公立大学・早慶上理・GMARCHへの進学志望を持った生徒の希望を叶えるために、組織的な学習指導・進路指導を前進させる。
3. 学生・生徒・園児支援の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 入学者数の安定確保	・募集人員の確保（当面一学年280人の人員確保を目指す） ・特別選抜コースの入学生を確保するために、塾訪問をルーティン化する。（国公立系生徒の出身塾）	・入学者数280名を確保する。

4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

【部門長方針及び重点取組】

昨年度の第2期中期実行計画1年目では、本校の最重要課題である財政の健全化に向けて生徒数確保のための募集活動に注力してきた。その結果、11月末時点で、学校説明会等への参加人数は昨年度比137%、特に重要な10～11月は昨年度比166%、入試要項説明会では218%となり一定の成果が出始めてきた。

第2期中期実行計画2年目では、本校の特色ある教育活動を充実させ、教育の成果を高めることで、募集活動の効果的かつ効率的な展開が求められてくる。そのため本年度は、次の3つの項目、(1)清修のブランディングの推進、(2)募集対策の一層の工夫、(3)組織的な学力向上と進路実現を重点取組として設定する。

(1) 清修のブランディングの推進

2回の海外語学研修を踏まえた英語教育の充実と、探究学習である5000字論文とを関連付け、英語サマリーの作成と英語スピーチへとつなげていく。加えて、世界から集まったキャストと自己表現力を高める“HEART Global”や国際コンベンションでプレゼンテーションを行う鉄道模型などを、清修ならではの取り組みとしてブランディングを図る。また、本校独自のゆとりとしてのTeatime、ミニコンビニを安定的に継続していく。これらの取り組みを通して、他校との差別化を図るとともに、在校生や保護者の学校満足度を向上させる。

(2) 募集対策の一層の工夫

学校説明会等への参加人数は目に見えて増加したが、本校への受験希望者が今後も継続的に増加し続ける保証はない。そこで、昨年度に導入した生徒募集のためのメンター制をリニューアルすることで3月から本格的に稼働させ、塾や受験希望者等との関係性を強化する。また、生徒募集を第一フェーズ(3～5月)第二フェーズ(6～8月)第三フェーズ(9～11月)第四フェーズ(12～2月)と区分し、それぞれで明確な重点目標を定め、成果と課題を明示することで、全教員体制で効果的かつ効率的に取り組んでいく。

(3) 組織的な学力向上と進路実現

生徒の学力の向上と進路実現は学校の存在価値といってもよい。学力の向上を図るためには、模試分析を行うことで生徒の学力の現状を全教員が把握した上で、それぞれの生徒に対する適切な働きかけをすることが重要であるとともに、これによって教員も授業改善の意識を高める。さらに、模試分析会の結果を蓄積し、本校ならではの進路指導体制を構築し、特に6年生は進路実現に向け、夏休み前に志望校検討会を実施し、長期休業中の適切な指導や計画的な補講等を行う。

募集対策は、財政の健全化の観点からも経営上の重要課題であり、重点施策である。学校の特色について公立中学校や私立の競合校との差別化を明確にして、「英語教育の清修」「国際的に活躍する清修」「夢をかなえる清修」の実現に向け取り組んでいく。

(白梅学園清修中学校・中高一貫部 校長 南 和男)

【主要な事業計画】

(白梅学園清修中学校・中高一貫部)

1. 教育活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 女子教育の充実	・女子校の社会的ニーズに応え、自ら考え判断し行動できる女性の育成を目指す。	・高大連携校の津田塾大学や実践女子大学と授業の単位認定や国際理解教育等の連携を深める。
(2) 英語教育の推進	・英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。	・新たな海外研修プランと探究学習、キャリア教育の繋がりを持たせた、英語を主とした大学受験へと結びつける。
(3) ICT 活用	・ICT を活用する能力を高め、主体的な学びの基盤となる能力の育成を目指す。	・ICT の活用能力を授業や委員会活動などを通して高める。
2. 研究活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 生徒の学力向上	・学力向上に向けた授業改善に組織的に取り組み、自らよりよい授業を目指す教員を育成する。	・模試分析を行い、学力向上・進路目標の実現に向けた情報共有を全教員で行う。
3. 学生・生徒・園児支援の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 自己実現に向けた生徒指導の充実	・一人一人の生徒の教育的ニーズに応じて個別最適な学びを支援する。	・ルールづくりを通して自主性を育むとともに、課題解決に向けた対応力も育成していく。
4. 学生・生徒・園児の確保		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 募集対策の工夫	・安定的に入学人数を確保する。	・学校説明会等参加者数 500 名以上、入学生徒数を 60 名とする。
5. 学園広報の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) ブランディングの推進	・ブランドの定着が図られている。	・英語教育や“HEART Global”、Teatime、ミニコンビニ、鉄道模型などをポイントとして積極的に本校のブランディングを構築する。
6. 国際交流の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 外国人、留学生との交流	・外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・次年度に向けて 2 年生のフィリピンセブ島研修と 5 年生のオーストラリアブリスベン研修の準備を行う。

7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)小平市との連携	・地域社会に貢献する学校を目指す。	・小平市中央公民館事業と連携を図り、事業に参加している。
8. 卒業生との連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)同窓会との連携	・あこがれの先輩としての存在からキャリア教育に結び付ける。	・OG 進路講演会（9 月）と学校説明会（4 月～9 月）への参加協力を得ている。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)学校運営組織の強化	・校務を組織的に取り組むため、責任者を明確にする。	・部長会を学校運営の中核機関と位置づける。
10. 建学の精神の高揚		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)建学の精神を時代のニーズで捉える。	・時代のニーズに応じた育てたい生徒の姿を明確にする。	・ヒューマニズムの精神は Society:5.0 の時代にあって最も重要な資質となることを入学式や卒業式、学校説明会等で理解を図る。
13. 財政再建計画		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)学校運営経費のスリム化	・入学生徒の 40 名確保 ・学校運営経費のスリム化	・常に中高事務課と連携をとり、予算の執行を行う。保護者負担金については支出状況を注視し、残金の確認を行う。新海外研修プラン実施に当たっても、旅費と積立金額の試算を行う。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)学校経営及び学校運営の組織的運用	・全教員が情報の共有を前提として業務が遂行できるようにする。	・部長会の資料をその日の内にアップロードし、全員で共有する。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)施設の改修	・改修が実行されている。	・和式トイレを洋式トイレに改修する。
16. 情報化教育/ICT		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)今後のオンライン教育のあり方の検討	・タブレット端末を使った新しい授業の創造	・ICT の活用状況の全体把握を実施する。

5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園

【部門長方針及び重点取組】

白梅幼稚園は大学附属の幼稚園として大学・短期大学の教育・研究と連携・協力を図り、子ども自ら遊ぶ先進的な実践と研究を行い、その成果を広く発信し、提案を行う。

2025年度は、満3歳児クラスを開設し、4年保育を含めて、先進的な保育実践や保育環境の最適化、カリキュラム開発を推進する。また、未就園児を対象とする保育を拡充し、諸企画を充実させ、地域における本園の子育て支援の機能について強化を図る。

(1) 先進的な幼児教育の実践と研究の推進

子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育の実践と研究を行う。

- ①「保育環境の最適化」として、保育者の保育構想のもと、室内外の保育環境を構築する。環境会議や園庭ワークショップなど保育者間の協働によって、相互に知見と技術を共有し高め合う。また、引き続き、安全で衛生的な保育室及び園環境の整備を進める。
- ②探究と協働を軸にした「カリキュラム開発」を推進する。年齢に応じたカリキュラムに加え、行事や異年齢活動「うめっこひろば」の実践など諸般の取組を含めて、子どもの経験を読み解きカリキュラムを策定する。
- ③満3歳児保育を開設し、落ち着いて生活や遊びに取り組める保育環境を構成するとともに、好奇心や探究心を引き出すカリキュラムを作成し、3年保育への接続を図る。
- ④小平第一小学校と、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」の研究開発を進める。公開保育研究会を開催し、経過を公表するとともに、年度末に第三年次の成果をとりまとめる。

(2) 大学・短期大学の教育・研究との連携・協力の強化

大学・短期大学の学生や教員に教育・研究の場を提供し、学術研究の成果の還元を受けて、幼児教育の実践や研究を充実させるなど、大学附属園として先導的な役割を果たす。

(3) 白梅幼稚園の広報活動の充実

ホームページやSNSなどを通してネットワーク環境を積極的複合的に活用し、本園の諸活動の広報を充実させる。ボランティアを導入し、きめ細やかで、保護者目線で信頼できる情報の提供を目指す。引き続き、対面での広報にも注力する。

(4) 未就園児保育や未就園児対象企画の充実

2歳児クラス《ぴよぴよ》は満2歳2ヶ月以上の幼児を随時入室可能とし、保育内容の充実を図り、4年保育や3年保育との接続性の向上を図る。園庭開放やお話し会など未就園児対象企画を充実させ地域の子育て支援に資するとともに、本園の保育について理解を促す。

(5) 本園のブランディングの検討と試行

「子ども自ら遊ぶ「白梅の保育」」「ライフスタイルに応じた子育て支援」「大学との連携・協力」を柱とする「白梅ならではの」のブランディングを推進する。子ども学研究所の助成研究における資料のアーカイブ化に協力するなど、園史関係資料の保存と活用を推進する。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 本山 方子)

【主要な事業計画】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

1. 教育活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)「子ども自ら遊ぶ」幼児教育の実践の構築	・保育環境に誘われ、「もの」「人」「こと」を相互に関連付け、子ども自ら遊びを立ち上げ、深める「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。	①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施する。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新する。 ②満3歳児クラスを開設し、好奇心や探究心を引き出すカリキュラムを作成し、落ち着いて生活や遊びに取り組める保育環境を構成する。
(2)保育環境の最適化	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成する。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、必要に応じて修理や更新を行う。 ③環境会議を開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合う。 ④園庭ワークショップを実施し、園庭や屋外の保育環境について最適化を図る。
(3)教育における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大による子ども学の実践や、保育者養成教育に協力し、互恵的な学びの関係を築く。	①大学・短大の教育実習生を受け入れ、保育者養成教育に貢献する。 ②大学・短大の学科や施設等と連携・協力し、園児及び学生の諸活動の充実を図る。 ③大学・短大で開講する授業等に対し、参観の場の提供や、幼児教育実践や保育職に関する話題提供などを通して協力をを行う。 ④保育環境整備や保育補助等について、高校生や大学生等のボランティア等を導入し、学生・生徒の保育経験の充実に貢献する。
2. 研究活動の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)先進的な幼児教育の研究の推進	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを開発し、実施する。 ・文部科学省研究開発学校として、小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を開発する。 ・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。	①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進する。 ②公開保育研究会の開催などを通して研究成果を公表したり、他園を参観したりして、他園の保育者等との交流を図る。 ③文部科学省研究開発学校として、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を年間通して、実践を試行する。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

(2)研究における大学・短大との連携・協力の強化	・大学・短大の教員や学生に研究の場を提供し、学術研究の成果の還元を受けるとともに、本園の研究への支援を受けるなど、幼児教育に関する研究を相互に高めあう。	①大学・短大の研究・調査に協力し、その成果についてフィードバックを受ける。 ②幼稚園が推進する研究について、大学・短大の教員から指導・助言や援助を受けてさらなる充実と改善を図る。 ③大学の研究の受入については総務部が担当し、大学・短大の教育・研究の受け入れなどについて検討を進める。
--------------------------	--	---

3. 学生・生徒・園児支援の推進

施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)園生活において支援を要する子どもの育ちの保障	(該当なし)	①小平市の巡回相談等を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どものたちの集団かつ個の育ちを促す。
(2)預かり保育の充実	・預かり保育において、安定的な受け入れを行い、保育内容の充実を図る。	①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、準備する。 ③満3歳児クラス入園児について、ならし保育を含めて預かり保育を実施する。
(3)保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施	・保護者による各種活動の支援や相談機能の充実を図り、園児の健やかな成長を支える。	①保護者対象の講座を開催する。 ②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。
(4)各種支援における大学・短大との連携・協力の強化	・教員研修や保護者支援、発達・子育ての相談・支援等、よりよい教育を支える諸活動について、連携と協力を図る。	①大学の発達・教育相談室や専門領域の教員と連携して、子育てや発達の相談に対応する。

4. 学生・生徒・園児の確保

施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1)未就園児保育（2歳児クラス）の実質化と充実	・未就園児クラス『ぴよぴよ』での保育を充実させ、保護者による本園の保育への理解を深化させ、入園後の円滑な生活の実現を図る。	①未就園の2歳児クラスを変更し、5月～3月（8月を除く）に満2歳2ヶ月以上の幼児について随時入室可とし、満3歳児（4年保育）や3歳児（3年保育）の保育との接続を図る。 ②満2歳2ヶ月～6ヶ月は週1または週2クラスを、満2歳7ヶ月以上は週1～週4のクラスを開室し、内容の充実を図る。 ③自家用車による通園について5台まで可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2歳児クラス利用を促進する。 ④2歳児クラスの保護者は幼稚園主催講座への参加を可能とするなど、子育て等に関する相談に随時対応する。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

(2) 募集対策の強化	・園児募集の課題について、変化する諸状況や諸環境をふまえて明確化し、都度、対応を図る。	①未就園児対象の説明会については、従来の3歳児クラスの入園説明会のほか、満3歳児保育や2歳児クラスの説明会を開催し、それぞれに構成を工夫し、参加者の十分な理解を促し、疑問に答える。 ②入園説明会における資料提示を工夫し、SNSを活用して随時配信するなど、園への関心の継続やホームページの閲覧を誘う。 ③園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画と連動して広報の強化を図るとともに、願書提出までに、これらの企画や2歳児クラス、随時の園見学のいずれかは利用するように広報する。 ④園のパンフレットやチラシなどの紙媒体や、Webサイトの随時更新、SNSの随時配信、口コミなどを組み合わせて広報を行う。
5. 学園広報の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) ネットワーク環境の活用による広報活動の充実	(該当なし)	①ホームページやSNS（公式LINEアカウント、Instagram、ブログ）を活用し、随時の情報配信を園内外に行い、未就園児には幼稚園の様子や未就園児企画などのお知らせを行う。 ②さくらシステムやSNS等を利用して、在園児の保護者等に幼稚園の現況や各種企画等についてお知らせを行う。
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 未就園児を対象とする各種企画の実施	・地域における未就園児の親子を対象に園庭開放や諸企画を開催し、子育て支援に資する。	①2歳児クラスについて、満3歳児保育の導入に伴い見直しを行い、満2歳2ヶ月の幼児の随時の入室を可能とするなどして、未就園児保育を実施する。 ②園庭開放やおはなし会、あそぼう会、体験入園などの未就園児対象の企画を実施する。
(2) 地域や近隣諸機関との交流の推進	・教育や研究、各種支援等において、自治体や諸施設、教育機関と連携・協力を行う。	①小平第一小学校と幼小一体的なカリキュラムの研究開発を行うほか、地域や近隣の諸施設、諸機関と連携・協力を行い、園児の活動を充実させ、健やかな生活の安定を図る。

8. 卒業生との連携等の推進		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 卒園生との交流	(該当なし)	①同窓会を開催し、卒園生や保護者 OB と交流を行い、園の課題を認識し、園の教育への支援を得る。 ②保育における特定の活動において、技術のある卒園生や保護者 OB に協力をいただく。
9. 働き方・仕事の仕方の見直し		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 業務の再編と相互連携	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。	①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進する。
10. 建学の精神の高揚		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 園史や教育・研究実績、大学附属園としての機能をふまえたブランディング	・園史関係資料の保存・管理や、アーカイブ化、それらの資料を活用した研究を推進する。 ・大学附属園としての実績を含め、教育・研究・組織運営に関する年報を作成する。 ・ブランディングに関する検討を行い、園の将来像を見定める。	①大学・短大の教員、子ども学研究所と連携し、園史関係資料の収集を進め、園内の保存資料の整理とアーカイブ化を進める。 ②年報を作成し、教育・研究・組織運営の実績を取りまとめる。 ③ブランディングについて「子ども自ら遊びを拓き、探究と協働を深める「白梅の保育」、「家庭のライフスタイルに応じて「選べる」「白梅の子育て支援」、「大学との連携」を柱として進める。
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 教員組織の機能強化	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。	①主幹教諭と統括主任を配置し、園務の整理を円滑化を強化するとともに、各分掌に主任を配置し、担当業務の明確化し、相互の連絡・報告を緊密に行い、意思決定の迅速化を図り、透明性を高める。
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) 各種施設の改修	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①安全で公衆衛生に留意した環境整備として、旧園舎のトイレ改修と各保育室の照明の LED 化（ガラス管の入替）、サッシの滑りと戸当りの改善、旧園舎の昇降口床面の塗布、未就園児・預かり保育室の床面シートの入替を進める。

16. 情報化教育/ICT		
施策名	中期計画の全体像	2025 事業計画（年次計画）
(1) ICT システムの十全な活用	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	①スマートフォンを事務室や各保育室等に順次配置し、WiFi による通信を可能とし、保育中の子どもや安全に関する情報共有や保育の記録、事務室と保育室間等の連絡のために活用する。

[Ⅲ]2025 年度予算

1. 予算編成方針

2025 年度の予算は、以下の方針で編成した。

- (1) 2025 年度の入学・入園者数の見込みに基づく当年度の収入の範囲内で予算編成を行い、活動区分資金収支予算書における支払資金の増減額をマイナスとしない。
- (2) 2023 年度以降の入学・入園者数の減少に伴う収入減を受け、2024 年 2 月 26 日(月)理事会にて大短新棟建設計画の見直しを行った。見直し後の方針に則り、収支改善の一環として、当面の主な支出項目である、大短新棟のための建築資金積立を停止する。

2. 2025 年度予算の概要

予算編成方針に基づき、以下のように 2025 年度の予算編成を行った。

- ① 2025 年度の入学・入園者数の見込みに基づく 2025 年度の収支見通しは、2024 年 11 月時点では活動区分資金収支予算書における支払資金の増減額が 1 億 4,400 万円の支出超過となる見込みであった。当年度の収入の範囲内で予算編成を行うため、2024 年 11 月から 2025 年 1 月にかけて常勤理事会にて検討を重ね、以下の支出削減等を行うこととした。

(ア) 各部門の経費について、前年度予算比 10%削減を目標として検討を行った。学園全体で 10.4%の部門経費削減(4,900 万円)を行う。

(イ) 各部門において、学生・生徒・園児の獲得のために努力が続けられていることから、2025 年度は、その成果を見守るとともに、教職員のモチベーションを維持するため、賞与や給与(本俸)の削減につながる措置はできるだけ控える。

(ウ) 教職員の体制見直しや役員賞与 1 か月削減を実施する。また、教職員組合との交渉を行うことが前提となるが一部手当の見直しなどを実施し、4,200 万円の支出削減を見込む。

(エ) 大短新棟のための建築資金積立金から 5,500 万円を取り崩し、2025 年度の予算に充てる。

上記の支出削減及び積立金の取り崩しにより、活動区分資金収支予算書における支払資金の増減額は 200 万円の収入超過となる見込みとなった。

- ② 2025 年 2 月時点での 2025 年度の入学・入園者数の見込みがさらに減少したことを受けて、退職給付引当特定資産への繰入額を減額して対応することとし、支払資金の増減額は 200 万円の収入超過として 2025 年度予算を策定した。
- ③ 今後も厳しい財政状況が続く見通しであり、その他の諸手当、研究・研修費等については、各部門との調整を行いながら 2025 年度中に見直しを行い、さらなる支出削減に取り組むこととした。
- ④ 2026 年度以降は、実際の入学者数を踏まえ、必要な場合には賞与の削減を検討・実施する。そのため 2026 年度以降の入学者数目標値を学園が持続的存続可能な具体的な数値として設定し、2025 年度冒頭に各部門に示すこととする。目標値を実際の入学者が下回る見込みとなった場合には、その段階で賞与減額の実施を検討することとする。

■2025 年度 重点予算

部門	重点施策	金額
大学・短大	2027 年度 大学・短大改組に向けた取り組みに関する費用 ・新学科設置認可コンサル委託経費 ・2025 年度募集活動経費	1,000 万円
合計		1,000 万円

■大短新棟のための資金推移（100 万円以下四捨五入）

年度	繰入額	取崩額	年度末 累計額 (第 2 号基本金含)	備考
2017 年度 (決算)	1 億円	なし	1 億円	第 2 号基本金へ繰入
2018 年度 (決算)	1 億円	なし	2 億円	第 2 号基本金へ繰入
2019 年度 (決算)	1,400 万円	なし	2 億 1,400 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2020 年度 (決算)	1 億 2,300 万円	なし	3 億 3,700 万円	減価償却引当特定資産へ繰入
2021 年度 (決算)	1 億 7,700 万円	2,800 万円(※)	4 億 8,600 万円	減価償却引当特定資産へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2022 年度 (決算)	2 億 1,200 万円	1,700 万円(※)	6 億 8,100 万円	減価償却引当特定資産及び 2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2023 年度 (決算)	2 億 3,300 万円	1,500 万円(※)	8 億 9,900 万円	減価償却引当特定資産及び 2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2024 年度 (予算)	2 億 6,500 万円	7,300 万円(※)	10 億 9,100 万円	減価償却引当特定資産及び 2 号基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩
2025 年度 (予算)	なし	5,500 万円	10 億 3,600 万円	減価償却引当特定資産 取崩

※大短新棟のための費用として支出

■2025 年度 施設設備・ICT 予算一覧（100 万円以下四捨五入）

部門	施設設備・ICT（重点予算以外）	金額
大学・短大	基幹系システムカスタマイズ（300 万円） （授業支援システム・大短 WEB 出願システム・実習情報管理システム）	300 万円
白高	教室の ICT 設備更新（4,000 万円） 教員用学園貸与 iPad 整備（500 万円）	4,500 万円
清修	清修中学生への 1 人 1 台貸与 PC 整備（1,300 万円） ガス空調機入替（400 万円） （10 年リースの 3 年目）	1,700 万円
白高・清修 共通	基幹系システムカスタマイズ（100 万円） （入試システム・教務システム）	100 万円

学園共通	電子申請・勤怠管理システムの改修（200 万円） プリンタ等用品（100 万円） 学園システム保守・ライセンス費用（4,000 万円）	4,300 万円
合計		1 億 900 万円

3. 事業活動収支予算書における収支見通し

「教育活動収支」において、教育活動収入は前年度 27 億 7,800 万円だったが、1 億 8,700 万円減少し、本年度は 25 億 9,100 万円となった。主な要因は、学園全体で在籍者数が減少したことで学生生徒等納付金が 2 億 4,800 万円減少するためである。

教育活動支出は、前年度 29 億 2,600 万円だったが、1 億 1,500 万円減少し、本年度は 28 億 1,100 万円となった。主な要因は、学園全体で予算縮減を行ったためである。

「教育活動外収支」は前年度とほぼ同額であり、教育活動収支と教育活動外収支の合計である「経常収支差額」は 2 億 1,700 万円の支出超過となり、前年度比 7,100 万円の支出増となる。

「特別収支」については、100 万円の現物寄付を見込み、特別収支差額は 100 万円となる。

「基本金組入前当年度収支差額」は経常収支差額と特別収支差額の合計で 2 億 1,600 万円の支出超過、前年度比 1 億 3,100 万円の支出増となる。

「基本金組入額」は 4,500 万円となり前年度比 2 億 8,300 万円減となる。第 1 号基本金組入額は 4,500 万円となり前年度 8,100 万円減となる。内訳は、借入金返済等に伴う建物組入れ 1,000 万円、備品及び図書資産増加に伴う組入れ 3,400 万円となる。第 2 号基本金は 2025 年度については資金計画の見直しに伴い組入れ計画を取り止め、組入れ期間を延長する。

「当年度収支差額」は、2 億 6,100 万円の支出超過、前年度比 1 億 5,200 万円の支出減となる。「前年度繰越収支差額」と「当年度収支差額」の合計である「翌年度繰越収支差額」は 50 億 9,000 万円の支出超過となる。

4. 資金収支予算の概要

(単位：百万円)

科目	2021決算	2022決算	2023決算	2024予算 (A)	2025予算 (B)	増減 (B - A)
収入の部						
学生生徒等納付金収入	2,024	1,995	1,926	1,814	1,566	△ 248
手数料収入	35	30	26	29	27	△ 2
寄付金収入	10	11	63	58	5	△ 53
補助金収入	921	955	918	910	971	61
資産売却収入	10	2	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	16	13	15	7	6	△ 1
受取利息・配当金収入	2	2	3	2	3	1
雑収入	72	107	48	20	16	△ 4
借入金等収入	1	0	0	0	0	0
前受金収入	428	362	300	322	291	△ 31
その他の収入	717	654	743	647	615	△ 32
資金収入調整勘定	△ 540	△ 542	△ 432	△ 331	△ 296	35
(当年度資金収入) ①	(3,696)	(3,589)	(3,610)	(3,477)	(3,203)	275
前年度繰越支払資金	916	1025	967	* 976	* 670	△ 307
収入の部合計	4,613	4,614	4,578	4,454	3,872	△ 581
支出の部						
人件費支出	1,996	2,025	1,949	1,956	1,939	△ 17
教育研究経費支出	577	593	639	623	529	△ 95
管理経費支出	127	127	147	112	111	△ 2
借入金等利息支出	1	0	0	0	0	0
借入金返済支出	23	22	23	19	5	△ 13
施設関係支出	32	69	8	61	0	△ 61
設備関係支出	49	38	60	104	65	△ 38
資産運用支出	204	238	251	267	15	△ 252
その他の支出	629	611	704	599	592	△ 7
資金支出調整勘定	△ 49	△ 75	△ 76	△ 61	△ 56	5
(当年度資金支出) ②	(3,589)	(3,646)	(3,705)	(3,679)	(3,200)	479
次年度繰越支払資金	1,025	967	872	774	776	2
支出の部合計	4,613	4,614	4,578	4,454	3,977	△ 477
(当年度資金収支) ①-②	109	△ 56	△ 95	△ 203	2	205

* 2024年度予算は、2023年度決算確定前に作成している。
2025年度予算は、2023年度決算を反映している。

5. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科目		2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算	2024年度予算 (A)	2025年度予算 (B)	増減 (B - A)
教育活動収支	収入の部							
	学生生徒等納付金	1,973	2,024	1,995	1,926	1,814	1,566	△ 248
	手数料	38	35	30	26	29	27	△ 2
	寄付金	26	9	9	31	8	5	△ 3
	経常費等補助金	847	902	940	918	900	971	71
	付随事業収入	10	16	13	15	7	6	△ 1
	雑収入	43	72	107	48	20	16	△ 4
	教育活動収入計	2,937	3,058	3,094	2,964	2,778	2,591	△ 187
	支出の部							
	人件費（退職給与引当金繰入額を除く）	1,844	1,907	1,882	1,907	1,944	1,930	△ 13
	退職給与引当金繰入額	79	103	150	65	45	40	△ 6
	教育研究経費	759	771	788	832	817	724	△ 93
	（うち減価償却費）	190	194	195	193	194	195	1
	管理経費	131	134	133	154	119	117	△ 2
	（うち減価償却費）	7	7	7	7	7	6	△ 1
	徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	2,813	2,915	2,953	2,958	2,926	2,811	△ 115
	教育活動収支差額	124	143	141	6	△ 148	△ 220	△ 72
教育活動外収支	収入の部							
	受取利息・配当金	2	2	2	3	2	3	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	2	2	2	3	2	3	1
	支出の部							
	借入金等利息	1	1	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1	1	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	1	2	2	3	2	3	1
	経常収支差額	125	145	143	8	△ 146	△ 217	△ 71
特別収支	収入の部							
	資産売却差額	0	5	0	0	0	0	0
	施設設備寄付金	1	1	2	32	50	0	△ 50
	現物寄付	1	1	1	4	1	1	0
	施設設備補助金	17	19	15	0	10	0	△ 10
	過年度修正額	0	0	0	0	0	0	0
	特別収入計	19	26	18	35	61	1	△ 60
	支出の部							
	資産処分差額	8	3	2	9	0	0	0
	その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	0
	特別支出計	8	3	2	9	0	0	0
	特別収支差額	11	22	17	27	61	1	△ 60
	基本金組入前当年度収支差額	134	167	159	35	△ 85	△ 216	△ 131
	基本金組入額合計	△ 68	△ 17	△ 9	△ 199	△ 328	△ 45	283
	当年度収支差額	66	151	150	△ 164	△ 413	△ 261	152
	前年度繰越収支差額	△ 4,619	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	* △ 4,431	* △ 4,830	△ 399
	基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 4,553	△ 4,402	△ 4,253	△ 4,417	△ 4,844	△ 5,090	△ 246

(参考)

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算	2024年度予算	2025年度予算	増減
事業活動収支計（＝帰属収入）	2,957	3,086	3,115	3,003	2,841	2,595	△ 246
事業活動支出計（＝消費支出）	2,823	2,919	2,956	2,967	2,926	2,811	△ 115

* 2024年度予算は、2023年度決算確定前に作成している。

2025年度予算は、2023年度決算を反映している。

6. 学生生徒園児数／本務教員数

学生生徒園児数

(人)

入学者数	2025予算	2024予算	前年比	定員	定員充足率
大学（除編入）	177	184	△ 7	230	77.0%
大学（編入）	14	6	8	30	46.7%
短大	46	70	△ 24	80	57.5%
大学院	7	3	4	7	100.0%
大短院 計	244	263	△ 19	347	70.3%
白高	226	220	6	280	80.7%
清修	64	45	19	60	106.7%
幼稚園	31	40	△ 9	70	44.3%
学園合計	565	568	△ 3	757	74.6%

在籍者数	2025予算	2024予算	前年比	定員	定員充足率
大学	771	847	△ 76	990	77.9%
短大	114	154	△ 40	160	71.3%
大学院	19	22	△ 3	21	90.5%
大短院 計	904	1,023	△ 119	1,171	77.2%
白高	706	742	△ 36	840	84.0%
清修	242	213	29	360	67.2%
幼稚園	116	145	△ 29	210	55.2%
学園合計	1,968	2,123	△ 155	2,581	76.2%

本務教職員数

(人)

	2025予算	2024予算	前年比	定員値	2025予算との 定員値比較
専任	38	38	0	38	0
特任	3	3	0	4	(1)
助教	2	2	0	1	1
大学計	43	43	0	43	0
専任	6	7	-1	8	(2)
特任	1	1	0	0	1
助教	3	3	0	3	0
短大計	10	11	-1	11	(1)
専任	39	42	-3		
常勤	9	7	2		
白高計	48	49	-1	49	(1)
専任	15	14	1		
常勤	6	6	0		
清修計	21	20	1	21	0
専任	8	8	0	8	0
特別	2	2	0	2	0
幼稚園計	10	10	0	10	0
専任	43	43	0		43
期限付き	0	0	0		0
事務計	43	43	0	45	(2)
(中高事務課有期契約職員★)	5	5	0	5	0
学園合計（除く★）	175	176	-1	179	(4)
学園合計	180	181	-1	184	(4)

※ 休職者等は人数に含み、その代替者は人数に含まない。

※ 兼務者は人数には含まれない。